

## 議題

# うめきた2期区域まちづくりの方針 について

- ✓ うめきた2期区域まちづくりの方針(案)の  
検討経過について
- ✓ うめきた2期区域まちづくりの方針(案)に  
ついて

うめきた2期区域  
まちづくりの方針(案)の  
検討経過について

# うめきた2期区域まちづくり検討会

	役職等	氏名
◎	建築家、東京大学名誉教授	安藤 忠雄
	建築家、東京大学教授	隈 研吾
○	東京都市大学教授、横浜国立大学名誉教授	小林 重敬
	大阪府立大学大学院教授	増田 昇
	ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長	室崎 益輝
	大阪府立大学特別教授・大阪市立大学特任教授	橋爪 紳也
	都市再生機構西日本支社長	伊藤 治
	伊藤滋都市計画事務所 パートナー	長島 俊夫
	大阪府住宅まちづくり部理事	井出 仁雄
	大阪市都市計画局長	川田 均
	(アドバイザー)	
	東洋大学教授	根本 祐二
	大阪大学名誉教授	宮原 秀夫

◎:スーパーバイザー      ○:座長

# まちづくり検討会の開催経過

## 第5回 大阪駅周辺地域部会<9/1> 【前回】

まちづくりの方針の検討状況について(中間報告)



## 第4回 まちづくり検討会<10/14>

まちづくりの方針の検討

- ・「みどり」と中核機能のあり方について
- ・なにわ筋線について
- ・防災について



## 第5回 まちづくり検討会<11/19>

まちづくりの方針(案)について



まちづくりの方針(案)の取りまとめ

# まちづくりの方針(案)検討の論点

## (1) 関西圏におけるうめきたの位置づけ・役割について

### (地域部会での主な意見)

- うめきたは関西圏の中で非常に重要なところだという認識を持つべき。  
関西圏全体の中で、また、周辺との関係でどういう役割を果たすのか、  
戦略的位置づけを整理した方が、関係者の合意を得やすい。

### (検討会での主な意見)

- 国家戦略特区や関西イノベーション国際戦略総合特区など、関西における広域的なこの地域の位置づけ・役割を明確に周知すべき。
- 関西の都市が連携して強みを発揮できるよう、関西全体の圏域をイノベーションする、大阪という都市をイノベートする役割を持つべき。

## (2)「みどり」と融合した中核機能のあり方について

### (地域部会での主な意見)

- 新産業創出、国際集客・交流、知的人材育成の3つの中核機能と「みどり」が有する癒し、安らぎの機能とが両立したものにしなければならない。
- 一定の基盤が存在し、国際競争力の観点から成長が期待でき、国家戦略特区の位置づけ等とも整合する中核拠点の形成が重要。国内外から人材等が集いやすく、交流しやすい場所に立地しなければならない。
- 2期に独自性を持たせ、世界に発信するために文化の薫りが必要。

### (検討会での主な意見)

- 中核機能は「みどり」と競合するのではなくむしろ融合するものであり、いかに「みどり」を活かした中核機能にするかが重要。
- 都市の強さは新産業の育成。観光産業も重要だが、大阪で新しい産業を創らなければならない。
- 「みどり」は国際集客・交流、知的人材育成を生み出す基盤であると同時に、健康や環境・エネルギーなどの新産業創出の可能性をも保有するものであるべき。
- 新たな都市文化、みどりを含めた新しい都市文化をいかに発信していくのかということが、ここの持っている大きな意味である。

## (3)「みどり」のあり方について

### (地域部会での主な意見)

- 大地に深く根を張った樹木に代表される植物、すなわち命あふれる生き物で構成される「ほんまもんのみどり」即ち「本物の緑地」をできるだけ大規模に確保してもらいたい。
- 「みどり」を軸にしながら、さらに周辺も含め、関空からのアクセスやその他利用者の視点も踏まえて、もっと大きな視点で「みどり」を考えていくことが必要。

### (検討会での主な意見)

- 市民の活動が「みどり」とどう繋がるのか、市民にとって「みどり」の空間はどういう意味合いを持つのかという視点に立って、ここでは従来の都市公園ではなく、都市・自然・人間との新しい関係性や、新しい「みどり」のあり方を提案するようなものをめざすべき。
- 例えば健康・医療といった中核機能と融合するような「みどり」が、ここでめざすべきものであり、規模もそれを実現するための重要なファクターではあるが、それだけで議論するのではなく、中核機能との関係性も含めて考えるべき。

## (4)なにわ筋線・新駅について

### (地域部会での主な意見)

- なにわ筋線の構想がある中で、うめきた2期で何が必要かという議論も必要。
- 新駅が出来た際に、近畿圏全体の現在の特急網が、大阪都心に乗り入れが可能になるということを最大限生かすような方策を考えたい。

### (検討会での主な意見)

- なにわ筋線の意義は非常に大きい。関空との時間短縮だけでなく、将来の都心部の交通需要に対して必要な路線であり、周辺の拠点の価値も高めることが期待できる。

## (5)新駅や西口広場の空間形成について

### (地域部会での主な意見)

- 梅田の既存の駅と新駅との歩行者空間の一体性だけでなく、案内や、バス・タクシーに乗るときの利便性についても一体的に考えるべき。
- 地下駅の設置を踏まえて、歩行者の上下移動を少なくする配慮をした移動しやすい動線を考えていくことが必要。

### (検討会での主な意見)

- 案内を見なくても一目で駅全体の構造が分かるような空間づくりが実現できるよう、新駅や広場は新しい駅空間として考えることが必要。
- 駅や周辺にいて梅田全体が分かるような機能面での分かりやすさと、都市空間として付加価値の高い空間をどのようにつくるかがポイント。

## (6)防災について

### (地域部会での主な意見)

- 大阪駅周辺地域が250万人の乗り降りがあるエリアであり、ピーク時に大規模災害が起こる場合の対応などを考えておくことが必要。

### (検討会での主な意見)

- 「みどり」があって人が集まってくる楽しい空間を創ることを基本にしながら、隠し味として「防災」があるという発想が重要。
- 平常時には使いやすい空間でありながら、災害時にしっかりと機能する空間を作るべき。
- 「みどり」のオープンスペースが持っている役割と建築物内部の役割とをどのように融合させていくのか、時間軸を組み込んだ中で、それをどう展開していくかが重要。

## (7) 周辺への波及について

### (地域部会での主な意見)

- この拠点だけの「みどり」ではなく、周辺に広げていくことが必要。
- 先行開発区域との相乗効果を打ち出すことも重要。

### (検討会での主な意見)

- ここでの「みどり」がトリガーとなり、どのように関西圏、淀川や中之島に繋がっていくのか、市内の緑の構造に対してどういう波及効果を持つのかが重要。
- うめきたの開発で周辺も大きく変わり、新しいまちづくりが起きる。その時に、「みどり」や防災、エネルギーの取組みを周辺と一体となってどう展開させるかの視点が重要。

## (8)まちづくりの方針の位置づけと検討プロセスについて

### (検討会での主な意見)

- この方針は必要条件であり、あまり絞り込まずに基本的な考え方をしっかりと民間事業者に提示し、その上で自由に発想していただく指針とする。
- 今回、民間提案を募集し対話によって方針を作成し、開発事業を進めていく2段階募集のスキームそのものが前例がないもので、従来にない仕組みであることを明記すべき。

# うめきた2期区域 まちづくりの方針(案)について

# まちづくりの方針の構成

1. 2期区域のまちづくりの目標
2. 比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方
3. 「みどり」と融合し価値を創造・発信する「イノベーション」  
～導入する都市機能～
4. 「みどり」を体感できる空間づくり
5. 歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり ～交通ネットワーク～
6. 速やかに災害から復元するまちづくり
7. 環境共生の新たな展開をめざしたまちづくり
8. 持続的发展をめざしたエリアマネジメント
9. 周辺とともに地域全体の価値を向上させるまちづくり

# はじめに

- この「まちづくりの方針」は、うめきた2期区域のまちづくりのめざすべき方向性などを示すものであり、当区域の都市計画や平成27年度以降に開発事業者を決定するために実施予定の2次募集におけるまちづくりの基本的な考え方をまとめたもの
- 基本計画策定(H16)後の社会経済状況やまちづくりにおける市民・企業の役割など、都市開発を取り巻く状況の変化
- 変化に対応した新しいまちづくりのプロセスをめざすことから、計画策定の段階から、民間の独創的なアイデアやノウハウを求める民間提案募集を実施、提案者との「対話」を行いつつ、検討会でまちづくりの方針を検討
- これら一連のプロセスは、公民連携によるこれからのまちづくりの可能性を拡げるモデルに

# 1. 2期区域のまちづくりの目標

国際競争力を高め  
世界をリードする  
まちづくりの実現

関西の発展を牽引する  
リーディングプロジェクト

「グランドデザイン・大阪」  
「国家戦略特区提案」

西日本最大のターミナル地区、関西の中核拠点のポテンシャル

これまでの都市づくりのパラダイムを超えた新しい未来のまちのあり方の提案

## 「みどり」

- 都市や人間と自然、環境との新しい関係性を構築し、都市の文化となる
- 大阪を世界水準の都市空間を持つ国際都市に引き上げるトリガーとなる

世界中から資本、人材等を集積、新たな国際競争力をもたらす

## 「イノベーション」

- 優れた立地ポテンシャルを活かして、関西のイノベーション創出の総力を束ね、連携の結節点となるような拠点をめざす

# 1. 2期区域のまちづくりの目標

## 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

### 世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」

- まち全体を包み込む「みどり」が、ここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。

### 新たな国際競争力を獲得し、 世界をリードする「イノベーション」の拠点

- 世界から人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」の拠点。
- 「みどり」が人間の創造性を刺激する環境を創出し、世界からその環境を求める人材や技術、資本を集積させる。
- 「みどり」が創り出す魅力ある空間と、関西の力を結集させた中核機能とが融合し、世界中から訪れる人々に新たな知の交流を提供する。

## 2. 比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方

### (1)「みどり」の役割

①まちの基盤となり、次代に受け継ぐ資産となる「みどり」

②使いこなしによって多様な価値を生み出す「みどり」

③成長しながら、周辺地域へ進出、波及効果を生み出す「みどり」

## 2. 比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方

### (2)「みどり」の空間形成

① 斬新で質の高い景観を創る「みどり」

② メッセージ性のある「みどり」

③ 「みどり」の成長など時間軸を組み込んだデザイン

## 2. 比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方

### (3)「みどり」の配置・規模

#### 「みどり」の定義

「すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこで人間の活動が豊かに展開される緑豊かなオープンスペース」

#### ①地上のまとまった「みどり」

- 接地性のあるまとまった「みどり」
- 恒久性、永続性を持つ

#### ②建築物と一体化し 地上と連続する「みどり」

- 地上のまとまった「みどり」と連続し、地上から円滑にアクセスできる建築物と一体化した「みどり」
- 「みどり」の新たな可能性を提示